

土砂災害から身を守るために

8月19日～20日の広島市における局地的な豪雨に伴い発生した土砂災害では、甚大な被害が発生しました。土砂災害は全国のどこの地域でも起こり得るもので、当然、鳥羽市においても起こる可能性があります。土砂災害から身を守るために、事前に備えましょう。



一人一人が備えてこ！
防災力UP！鳥羽

総務課防災危機管理室



25

1118

vol.17

地域を確認！

自分の住んでいる地域や、普段の行動範囲において、以下のことを確認しましょう。

- 土砂災害危険箇所や、土砂災害警戒区域といった危険な箇所がないか
- 避難所はどこか

※市ホームページから確認できます。

URL <http://www.city.toba.mie.jp/bousai/dosha/kinkyuushuuchi.html>

情報を収集！

大雨などの気象情報や避難勧告などの防災情報に注意しましょう。

情報の収集方法については、テレビやラジオ、インターネットといった一般的なもののほか、屋外のスピーカーから流れる防災行政無線の放送や、防災ラジオ、とばメール、緊急速報メール（エリアメール）、防災情報等相互通報システムがあります。

早めの避難！

危険を感じたら速やかに避難しましょう。

- ・土砂災害は、発生する前に小さな落石、湧水の濁りや地鳴り・山鳴りなどの前兆現象がある場合があります。
- ・土砂災害は、避難所などへの避難が基本です。避難所までの移動が危険なときは、近隣のより安全な場所へ移動するか、それさえ危険だと感じたら、屋内にとどまり、谷側の2階以上の部屋へ移動することも避難の一つです。

子どもたちは、歌がとつても大好きです。幼いころ聞いた昔ながらの童謡を伝えていきたいと思い、あそびの広場「だっこ」や出張広場・サロンへ出掛けたときに、「どんぐりころころ」「まつぼっくり」など、季節の歌を紹介し、みんなで歌っています。童謡のCDをかけたり、歌ってあげるとまだ話せないお子さんたちも、体を横に揺らしたり、手を叩いたり、声を出して、楽しんでいきます。また、さつきまで泣いていた赤ちゃんが泣き止んだり、すやすや眠り始めることもあります。（童謡の波長は、赤ちゃんがお母さんのお腹の中にあるときの安らぎの波長なのだそうです）

乳幼児期から童謡を聞かせたり、お母さんの優しい声で歌ってあげたりすると、想像力や情緒が豊かになり、脳が活性化されるそうです。1歳を超えようになると脳の急激な成長により、「ぞうさん」の歌を歌いながら象の絵を指差せば、それが象であることが理解できるようになり、関連する知識をどんどん覚えていき言葉の発達にもつながります。また、童謡を歌うことは、お子さんだけでなくお母さんの心も穏やかにし、気持ちを明るくさせてくれます。そして、何よりも大事なお子さんとのコミュニケーションになります。世代を超えて歌え、人々のつながり、心への活力、生きる喜びが共有できる童謡ですが、近年歌われることが少なくなっています。心のふるさとである童謡を大切に、親から子へ、孫へと伝えていきたいですね。

Vol.32



子どもに伝えたい。聞かせたい“童謡”

みんなで子育て
だっこでほっと

子育て支援センター
☎ 25 7225